



社会福祉法人 三愛学園

児童養護施設 さんあい
緊急一時保護ユニット オリーブ
ファミリーホーム 三愛茜の里

平成 30 年度事業報告

【法人理念】 神を愛し 人を愛し 土を愛す

【養育目標】 思いやりのある子

平成 30 年度事業報告

施設長総括

平成 30 年度は、施設長にとって激動の年でありました。施設運営全体の課題として大変重要な案件が複数ありました。1 番大きかったのは事務所棟の増築工事です。詳細は、本篇の中でご報告いたしましたが、昨年度後半から建築士さんと職員と協議を重ね設計図の確定、行政の許可、理事会の承認、入札等の手続を得て無事予定通りに 2019 年 3 月末までに完成いたしました。増築により、より良い心理室の確保、学習スペースと会議スペース、そして業務スペースを確保することができました。2 番目に大きかったのは、10 年前の新園舎移転時に導入した業務システムの変更です。他施設からの紹介ですばらしいシステム開発業者にめぐり合い、これも予定通り昨年 8 月より導入し稼働しています。新システム導入により情報共有が格段に進み、会議時間の短縮やペーパーレス化が大きく前進しました。また、より良い職場環境を整えるために職員からの意見を吸い上げ、就業規則の変更やメンタルヘルスへの取り組みも始めました。

同時に子どもの最善の利益の追求に注力し、幾つかのことを進めました。一つは、「アニマルセラピー」の概念をもとに、ペットの飼育を本格的に始めました。現在では、犬 1 匹とウサギ 3 匹の世話を各ユニットの子どもたちが週替わりの当番で行っています。オリーブの子どもたちも、お世話したい子は積極的にさせています。さらに子どもたちからの意見を吸い上げ、子どもの権利擁護にも照らし合わせながら各ユニットで Wifi のできる環境にしました。使用時間帯やパスワードの管理等のルールを作り子どもたちが納得したうえで、本格的に稼働しています。その他の改善事項や新規に実施した事項は、本篇に記載されています。

悲しいことも多かった年度でもありました。長年さんあい生活していた高校 3 年生が残念な事情で突然退所することがありました。また、メンタルヘルスやプライベートの事情で年度中に退職する職員が相次ぎました。職員間の信頼関係が損なわれる事象も起こり、施設長としての力不足を痛感させられた年度でもありましたが、同時に職業人として人として神様に成長させていただいたと思っています。

そんな嵐のような状況の中でも入所児童と一時保護児童の安心・安全の生活が保たれたことは、ひとえに献身的な職員の働きと神様の守りがあったからです。ここに改めて感謝いたします。また、日ごろ支えてくださる理事・評議員の皆様、支援者の皆様、ボランティアの皆様に心より感謝し平成 30 年度の活動報告のご挨拶いたします。

児童養護施設さんあい 施設長 高瀬一使徒

平成 30 年度事業報告

1. 入退所児童データ

①入退所児童数 (30. 4. 1～31. 3. 31)

月	在籍数	入所	入所理由	退所	退所理由	一時保護	一時保護理由	一時保護解除	一時保護解除理由
4	35					2	虐待 2	3	家庭引取 2 施設 1
5	35					2	虐待 2		
6	35					5	虐待 3 逮捕 2	3	家庭引取 2 入院 1
7	35			1	一時保護	3	虐待 3	2	保護所 2
8	34					1	虐待 1	3	家庭引取 1 保護所 2
9	34					2	虐待 2	1	保護所 1
10	34					6	虐待 2 入院 4	5	家庭引取 5
11	34					2	母子関係 2		
12	34					2	虐待 2	6	家庭引取 5 入院 1
1	34	1	ネグレクト			2	虐待 1 就労 1	1	保護所 1
2	35					3	虐待 1 入院 2		
3	35					2	虐待 2	4	家庭引取 3 施設 1
合計	414	1		1		32	虐待 21 逮捕 2 入院 6 その他 3	28	

②退所先別 (30. 4. 1～31. 3. 31)

退所先	男の子ブロック	女の子ブロック	一時保護ユニット
家庭			18
里親委託			
就職			
措置変更(施設)			2
一時保護所	1		6
入院			2
合計	1		28

③児童相談所別児童数 (31. 3. 31)

児童相談所	中央	南	熊谷	川越	越谷	所沢	さいたま市	合計
男児	0	3	5	4	0	5	0	17
女児	0	1	6	0	2	4	5	18
合計	0	4	11	4	2	9	5	35

平成 30 年度事業報告

④年齢別在籍児童数（31. 3. 31）

	幼児				小学生						中学生			高校生			合計
	未 満 児	年 少	年 中	年 長	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年	
男 児		1	1	1	2	2	1	1		2	1	2		1	2		17
女 児	2	1	1	1	1		1	2	1		1	2	2	1	2		18
合 計	2	2	2	2	3	2	2	3	1	2	2	4	2	2	4		35

⑤措置理由別児童数（H31. 3. 31）

措置理由		幼児	小学生	中学生	高校生
家出	父				
	母				
	両親				
死亡	父				
	母		(1)	(1)	
	両親				
疾病	父				
	母				
	両親				
離婚			1	2	2
棄児					
虐待	身体的虐待	2	3		2
	心理的虐待		2	2	2
	性的虐待			1	
	ネグレクト	1			
親の精神疾患		1	1	1	
服役			1	1	
未婚の母の子		2	3		
経済的理由		2	2		
里親委託解除				1	
その他					
合計		8	13	8	6

平成 30 年度事業報告

2. 年間行事

行事の種別	期日	実施内容
園内行事 学校行事 (全体)	4 月 5 月 6 月 7 月 9 月 10 月 12 月 1 月 3 月	各学校入学式、保育園入園式、入園入学を祝う会 創立記念祭（さんあい祭り）、第三回さんあい同窓会開催 小学校運動会 ガーデンパーティー 中学校体育祭 保育園運動会 クリスマス会、さんあい大掃除&さんあいレストラン もちつき・2 分の 1 成人式 各学校卒業式、保育園卒園式、卒園卒業を祝う会
グループワーク活動	4 月 5 月 7 月 8 月 9 月 12 月 1 月	深谷青年会議所主催「護衛中」（小学生 5 名） 「わくわくのびのびえこども塾」長野県小諸市（小学生 5 名、職員 3 名） 「カブトムシ採集」施設周辺（小学生 4 名、職員 3 名、ボランティア 3 名） 「児童福祉施設親善球技大会」（小中高生 16 名、職員 10 名） 「夏休みの工作」（幼児・小学生 14 名、職員 5 名、実習生 2 名） 「英語の教会学校に参加しよう」群馬県高崎市（小学生 13 名、職員 5 名） 「英語教会に行こう」東京都渋谷区（中高生 5 名、職員 2 名） 「いろいろカレー作り」（小中学生 15 名、職員 7 名、実習生 2 名） 「バードハウスコンテスト参加」緑の王国（小学生 5 名、職員 2 名） 「ドッジボール大会」ＢＧ体育館（中高生 10 名、卒園生 1 名、職員 6 名）
カフェさんあい	5 月	第 10 回「カフェさんあい」インカ・オシテールさん
招待関係 地域行事 深谷西島教会 高校生自立支援セミナー 等 (施設又は部屋で 対象児童を調整)	4 月 6 月 7 月 8 月	深谷西島教会「イースター復活祭」（小学生、職員） 深谷西島教会「花の日礼拝」（小学生、職員） 深谷青年会議所主催「FunFan ウォーク」（小学生 1 名） 「おかあさんといっしょコンサート招待」（幼児 6 名、職員 5 名） 「教会サマーキャンプ」御殿場市（小学生 1 名、職員 2 名） 「川嶋あいコンサート御招待」（中高生 4 名、職員 1 名）

平成 30 年度事業報告

	9 月 「キッザニア東京御招待」(幼児 1、職員 1) 10 月 「大人サンタ・バスケットボール教室」大田区(高校生 2 名、職員 1 名) 「大宮アルディージャ観戦御招待」(小中学生 2 名、職員 1 名) 11 月 深谷西島教会「子ども祝福式」(小学生、職員) コンパスナビ主催「吉本興業オオカミ少年の世渡り塾」(全員参加) 「軽井沢おもちゃ王国様招待」(幼児小学生 23 名、職員等 16 名) 12 月 熊谷福音キリスト教会「こどもクリスマス」(小学生 3 名、職員 1 名) 2 月 「サッカーゼロックスカップ御招待」(中学生 1 名、職員 1 名) 3 月 コンパスナビ主催「高校生合同企業説明会」(高校生 1 名) 深谷西島教会「子ども進級式」(小中学生、職員)
櫛挽子供会行事 (小学生対象)	7 月 七夕祭り飾り作り(地域婦人会合同) 8 月 櫛挽夏祭り(地域自治会行事) 9 月 岡部地区体育祭 10 月 レクリエーション大会(BG 体育館) 12 月 クリスマス会(地域婦人会合同) 1 月 食事会 3 月 歓送迎会(新一年生も参加)
各部屋行事(特別 外出・宿泊行事)	8 月 新潟県柏崎市海水浴、群馬県上野村川遊びキャンプ、箱根小涌谷ユネッサンス、埼玉県飯能川遊びキャンプ、静岡県初島海水浴、スパリゾートハワイアンズ
(部屋外出行事)	通年 映画館、J-WORLDTOKYO、ポケモンセンター、桐生が丘公園遊園地・動物園、越谷レイクタウン、原宿ジャニーズショップ、東武動物公園、ぐんまこどもの国、ららぽーと富士見・新三郷、各コンサート、華蔵寺公園、キッズーナ伊勢崎、伊勢崎スケートセンター、ラウンドワン、プール、トランポリンエアジョイ、むさしの村、日本科学未来館、アクアパーク品川、国営武蔵丘陵森林公園、東京ジョイポリス、鉄道博物館、アニメイト秋葉原、上野動物園、深谷スポーツヴィレッジ、水戸市気象観測台、アンパンマンミュージアム等々 ※その他、買物・外食・地域まつり、初詣等への外出がある

平成 30 年度事業報告

3. 職員研修実績

主催団体・機関	研修会内容
教育局、深谷市	児童虐待防止支援研修、虐待防止講演会、虐待防止ネットワーク会議
県社協	初任者向けバック研修（全 6 回）、スーパービジョン基礎研修、人材育成研修、中堅職員キャリアパス研修、管理者キャリアパス研修、感染症専門研修、発達障がいに関する研修、アングーマネージメント研修、チューター養成研修、
全養協	全国児童養護施設長研修、家庭支援専門相談員研修、中堅職員研修
埼玉協 埼玉研	心理職研修、新任職員研修全 3 回、施設間職員派遣研修（2 施設）、中堅職員研修、埼玉県児童福祉施設指導者研修、調理関係研修、基幹的職員フォローアップ [※] 研修、施設長職員虐待防止研修
関東ブロック	関東ブロック施設長研修、職員研修、事務職員研修
その他	SBI 児童養護施設職員研修（東日本）、子どもの虹指導者合同研修、子どもの虹心理担当職員研修、熊谷保健所管内食育講演会、各里親会研修会、資生堂スターズセミナー、性教協全国秋季セミナー、キリスト教連盟子育てワークショップ及びフォローアップ研修、埼玉県施設士会管理者研修、中央児相 TTT プログラム、児童養護セミナー、高校生自立支援セミナー
施設内研修 主催セミナー 講演会 等	* 施設内職員研修 さんあいスーパーバイザーである「まめの木クリニック」の藤井和子先生によるペアレント・トレーニング及びケースカンファレンスを実施。 ・ 第一回 6/13（水）「発達障がいと特徴、ペアレント・トレーニングとは？」 ・ 第二回 7/11（水）「男の子ケースカンファレンス」 ・ 第三回 9/19（水）「女の子ケースカンファレンス」 ・ 第四回 2/13（水）「保育園との合同ケースカンファレンス」 * さんあい合同セミナー ～養育者（里親・施設職員等）が学ぶ、子どもの「性」と「生」～ 講師： 日暮かをる先生、任海園子先生 参加者： 全 46 名（内、他施設職員等 22 名）

平成 30 年度事業報告

4. ケアワーク総括

① 女の子ブロック総括

平成 30 年度は 4 月に児童 2 人、新任職員 2 人を迎えスタートしました。年度途中で職員の退職や入職がありましたが、児童 18 人が無事 1 年間過ごす事が出来ました。

ねむのきはお手伝いが好きな子たちばかり。登校する前に乾いた洗濯物をいつの間にか畳んでくれたり、ご飯の準備を手伝ってくれたりと小さいお母さんのようです。お手伝いがしたくてケンカになってしまう事も度々ありました。夏の特別外出は箱根へ。ユネッサンでは様々なプールを楽しめ大満足でした。



いちょうはしっかりものの年長児を中心に元気良く生活しました。テレビに関してはジャニーズとアナと雪の女王のローテーション。幼児までジャニーズの歌を口ずさむ程ジャニーズワールド一色でした。夏の特別外出はキャンプへ。フォレストアドベンチャーにも挑戦したり、川遊びをしたり良い体験となりました。

ポプラは 1 月に入所児童を迎え 6 人になりました。行事の時には一致団結。ガーデンパーティー時に行った流しそうめん大会でも好成績でした。夏の特別外出は 2 年連続で新潟の海へ。途中車のトラブルに見舞われ、車をレッカーされる状況に。危機的状況ではありましたが地元の方の協力のもとコテージ到着。人の優しさを感じる事の出来た外出となりました。

個性的な 3 部屋で部屋運営としてグループに対しての支援をする一方、就寝前に個別の時間をとったり個々のニーズへの対応といった面でも意識して取り組んできました。1 対 1 だからこそ見せる顔や話せる事があり、それぞれ課題を抱える子ども達にとっていかに生活の中で個別の時間を保障出来るかも今後の課題になってきます。子ども達は自身の生い立ち等の過去の不安、学校やさんあいでの生活などの現在の不安、進学や就職などの未来への不安等様々な不安があります。過去、現在、未来についての不安に寄り添い子ども達の成長のサポートとして職員が携わる事が出来たら幸いです。



平成 30 年度事業報告

② 男の子ブロック総括

男の子ブロックの児童は、幼児 3 名、小学生 8 名、中学生 3 名、高校生 4 名の計 18 名と新任ケアワーカー 2 名が加わり職員 10 名でスタートしました。高校生 1 名は、年度途中での退所となりました。退所後も他機関や学校関係の先生方と連携をとりながら、児童自身が自らの課題と向き合えるよう支援してきました。特に学校の先生には卒業まで温かく見守り、粘り強く支援して頂けたことに感謝の気持ちでいっぱいです。彼は、無事高校を卒業し、新たな場で自立に向けて生活を開始しています。

小学生 2 名は、入院という形で、精神的な治療を受けることになりました。日々表出される対応困難な行動に、担当ケアワーカーは悩みながらも、児童の背景を考え、良い所を褒めながら関わり続けました。生活の場は離れましたが、面会時には、会えない間の手紙を渡しておくなど、少しでも児童に気持ちが伝わるよう意識しました。

不登校傾向のある高校生には、本児の悩みや気持ちを学校と共有し、定期的に連絡を取り合いました。状況に応じて車での送迎も取り入れ、進級できるよう支援してきました。

また 1 名の幼児が家庭引き取りとなりました。家族との面会や外泊を定期的に行い、良い形で退所出来たのではないかと思います。退所当日は、退所児童も園の児童、職員もみんな涙、涙で手を振って、別れと新たな出発を祝いました。

この一年間、児童の表出する言動に悩みながらも児童の気持ちに寄り添い、「ありのままの児童」を受け止めることができるよう努力しました。一人ひとりの児童と関わってきたからこそ、児童理解も深まり、児童を褒めることに関しては、どのケアワーカーもスペシャリストになりました。ブロック職員だけでなく多職種との連携も深まり、チームで児童を支えるチームワークも学び、鍛えることができたように思います。

中高生の人数が増え、新たな課題も見えてきました。「自立支援」という根本の目的に立ち返り、児童一人一人の自己実現のために何ができるのかを考えていきたいと思っています。



平成 30 年度事業報告

③ 緊急一時保護ユニット「オリーブ」総括

1年間で32名の一時保護児童を受け入れました。保護理由は虐待やネグレクト、保護者の病気や入院など様々でしたが、退所後は約7割が家庭復帰、残りが施設措置や他の保護所等、子ども達の安心と安全が守られるそれぞれの場所に見送りました。最短2日間、最長146日間の保護期間中は一日の流れに沿って学習に遊び、掃除も分担、気持ち良く安心して安全に暮らせる工夫をしました。また、週末の市内図書館や買い物等の外出、学期ごとに子ども達の要望を聞きながら映画や遊園地等の外出をしました。今年度も本園行事に参加しましたが、残念ながらクリスマス会はオリーブのみインフルエンザが流行し、居室内でお祝いをしました。一人一人が元気に安心して過ごせるよう努めていきたいと思ひます。



④ ファミリーホーム「三愛苗の里」

子ども同士の相互作用を活かしつつ、子どもの自主性を尊重し、基本的な生活習慣を確立すると共に豊かな人間性及び社会性を養いながら、子どもの自立を支援することを目標に取り組んできました。今年度、5年生になる男子児童が支援学級から親学級に編入したことで、心身ともに目覚ましい成長を遂げました。最近、中学校はみんなと一緒にがイイと言葉にしています。支援する大人達が、子どもの心に寄り添い励まし見守ってきたことが、本児の頑張りになったと思ひます。子どもたちにとって、ここでの生活が心地よい場所となり、家族の一員としての役割や自尊心を持つことによって、自らの夢に羽ばたいていけるような支援を引き続き行っています。

勤務体制面では、子ども達と暮らす職員・補助者の休みを確保することが急務とされていましたが、今年度は、「さんあい」退職者をサポート要員として確保でき、補助の負担が少し改善されました。サポート要員は、毎週水曜日15:00~20:00の5時間、勤務しています。このことにより、夫婦で雇用されている養育責任者と補助者の負担は少し軽減されましたが、今後、サポート時間の拡大、週1回の休日確保に向け、通いの職員の、勤務形態も踏まえて、さらなる職場環境の改善を図っていく必要があります。

地域との連携の面では、寄居町民生児童委員としては、地域児童の見守り活動や、独居高齢者の支援を行っています。また、今年度は、長期引きこもり(25年間)者を支援の場に繋げるなど地域の社会資源との連携が実を結ぶ事もありました。寄居町ショートステイ事業への支援では、昨年度実績4名でしたが、今年度は依頼がありませんでした。事業周知など子育て支援課を通し啓蒙していくと共に、地区民生委員・児童委員の視察研修も受け入れて行きます。



将来、各福祉分野で福祉を担う人材育成として、社会福祉士を目指す学生の実習生受入を毎年2名行っていますが、引き続き、実習生の受け入れを行っています。住居の保守管理として防カビ対策や2階ベランダのシート張替えなど生活環境整備を行ってきました。令和元年度は、ガス給湯器(22年間使用しており設定温度が安定しない等、不具合がある)の早期買い替えを計画しました。幸い「赤い羽根共同募金」NHK歳末助け合い募金の受配が決まり、給湯時に発電をするエネファームを導入する事になりました。ここに至るまで、皆様に沢山の支援を賜ったことに深く感謝するとともに、これからも地域に根ざしたホーム運営に努めていきます。

平成 30 年度事業報告

⑤ グループワーク



さんあいのグループワークの大きな目的は、個別性の質を上げることにあります。これは子どもだけでなく職員にとっても大切なことです。職員は自分の強みを活かしながら目的を持った活動を企画し、参加した子どもの望ましい行動を褒め、自信に繋げ、達成感や協調性を感じられる活動を目指しています。平成 30 年度は職員より自分の強みを活かした企画を募集し、選考された企画と共にいくつかの外部イベントもグループワークとして実施致しました。どの活動も子ども達の生き生きとした表情、好奇心、探求心が見られ、今後につながる良い体験になりました。

- 4 月 深谷青年会議所主催「護衛中ゲーム」小学生 5 名参加（市内小学生との交流）
- 5 月 「わくわくのびのびえこども塾（長野県小諸市）」小学生 5 名、職員 3 名参加（他施設児童との交流）
- 7 月 「カブトムシ採集」小学生 4 名、職員 3 名、ボランティア 3 名
- 8 月 「児童福祉施設親善球技大会（ソフトボール）」小中高生 16 名、職員 10 名（県内他施設との交流）
- 8 月 「夏休みの工作」幼児・小学生 14 名、職員 5 名、実習生 2 名（バードハウスコンテスト出品）
- 9 月 「英語の教会学校に参加しよう（群馬県高崎）」小学生 13 名、職員 5 名（グローバル交流）
- 9 月 「英語教会に行こう（東京都渋谷）」中高生 5 名、職員 2 名（グローバル交流）
- 12 月 「いろいろカレー作り」小中学生 15 名、職員 7 名、実習生 2 名
- 12 月 「バードハウスコンテスト設置参加（緑の王国）」小学生 5 名、職員 2 名（地域イベント）
- 1 月 「ドッジボール大会」中高生 10 名、卒園生 1 名、職員 6 名



⑥子育てサロン「夏みかん」活動

さんあいの子供たちが、委託里親・未委託里親が交流を通して関係性が深まり、自然発生的に週末里親（さんあい「ふれあい家族」）との交流が始まることを目指した活動です。

実施日	時間	内容
4 月 2 9 日	午前 1 1 時～ 午後 3 時	収穫体験：（たけのこ・ふき） 木工、クラフト 草餅づくり（よもぎ摘み）
6 月 2 4 日	午前 1 1 時～ 午後 3 時	収穫体験：（しいたけ） 風の道散策・沢遊び フルーチェ作り
8 月 2 5・2 6	午前 1 1 時～ 午後 3 時	宿泊体験 沢遊び・映画鑑賞・花火・かき氷
11 月 11 日	午前 1 1 時～ 午後 3 時	みかん狩り 木工・クラフト ホットケーキづくり
1 月 27 日	午前 1 1 時～ 午後 3 時	おもちつき（炊いたもち米を袋で揉む） * インフルエンザ流行の為に中止
3 月 10 日	午前 1 1 時～ 午後 3 時	木工・クラフト ふきのとう収穫 おもちつき（炊いたもち米を袋で揉む）

平成 30 年度事業報告

草餅作りではすり鉢とすりこ木をみんなで順番に使いしっかりとすりつぶしたかったのですが上手くいかず、ミキサーを使い細かくしました。夏場のお弁当は食中毒が怖いので皆さんには自分の好きなレトルトカレーを持参していただき、ご飯だけ用意しました。お泊り会では屋外映画鑑賞会をしました。寝っ転がってみていると山の向こうからきれいな満月が昇ってきてスクリーンが見にくくなってしまいくらいでした。ふきのとうはその場で天ぷらにしたので食わず嫌いの子どもたちも「おいしい、おかわりしたい!」と言うので、大人のお土産が減ってしまいました。毎回の木工は皆大作を作っています。椅子やテーブル、迷路や便利グッズなど、子どもの豊かな発想が形になっていくのがとても面白いです。工夫をこらし自然豊かな場所で子どもたちと楽しく遊ぶ活動をしています。



5. 各タスクチームの活動報告

① 広報タスクチーム

【成果】

さんあい新聞を4月、6月、10月、1月と今までよりも1回増やし、年間4回発行することにより、よりリアルタイムな話題を提供することができました。また、新聞の送付数も年々増えて、30年度は500通以上を送付する事ができました。これは支援者の拡大につながると思われます。ホームページをリニューアルして、より見やすく親しみやすい物へと改善したことによって、ホームページからの問い合わせが増え、見学者希望、ボランティア希望などの問い合わせが増えました。例年通りに支援者の方や、施設に暑中見舞いや年賀状を出しました。5月・12月にカフェさんあいを開催し、11月に高崎市在住の宣教師、ジョーンズ先生一家による「英語で遊ぼう」を開催しました。最後に今年度も市内のお店に置かせて頂いているさんあいの募金箱の回収を行い、寄付金のましました。



【課題】

さんあい新聞を今よりももっと読みやすく、また、マンネリにならないように新しいアイディアを出し、新鮮な話題を盛り込めるようにする。なかなか時間が取れずに募金箱の回収に行けないので、今後繋がりを切らさないような対策が必要だと思われる。

平成 30 年度事業報告

② 食育タスク活動報告



食育タスクの3本柱、行事食、さんあいレストラン、エコの日、を中心に活動しました。

行事食は年中行事に合わせ計画実施しました。さんあいレストランは、子どもたちの学校の振替休日などを利用し3回実施し、毎回大盛況でした。エコの日は定着し、残り食材を上手く活用してもらえるようになりました。子どもたちのエコに対する意識も高まってきています。その他としては、嗜好調査、栄養指導も各2回、実施しました。

今後も、子どもたちに食事に興味関心を持ってもらえるよう、上記活動の充実をはかります。

③ 職員研修タスクチーム

【主な活動内容】

- ① さんあいSV藤井和子先生による園内研修「ペアレント・トレーニング研修」の企画運営（ケースカンファレンスも含め全四回実施）
- ② さんあい合同セミナーの開催 ～養育者（里親・施設職員）が学ぶ、子どもの「性」と「生」～

【成果】さんあい養育の中心となる「ペアレント・トレーニング」を基本とした施設内研修です。第一回は里親、他施設職員も参加し、発達障がいの特徴とペアレント・トレーニングの基本を学びました。「望ましい行動」に焦点を当て、「褒める」を基本とした考え方やスキルは、被虐待体験や発達に特徴を抱える子どもを支援する私たちにとって、子どもとの良好な関係を築く大きなヒントになりました。



新たな取り組みとして、第四回目に子どもが通う保育園（認定こども園）との合同ケースカンファレンスを実施しました。保育園の先生方も子どもとの関りには苦慮しておられます。「すべては子どもために」という同じ思いを持つ関係者として、子どもの特徴を共有する場になりました。こうした機会を「連携」という形で活かしていきたいと思います。

- ① 子どもが抱える「性と生」について、今回は「障がいを抱える子どもへの性教育」という内容で、東京都の特別支援学校元教員で、性教育活動をしている日暮かをる先生、任海園子先生を招いてお話を聞きました。現在、施設でも里親家庭でも支援学校や支援学級に在籍する子どもが増えています。その為か、外部関係者の参加も22名と関心の高いセミナーとなりました。グループワークも交え、何が正しいかではなく、参加者同士の情報交換や悩みを分かち合う場にもなりました。とても繊細で対応の難しい課題ではありますが、先生方の実践や知識は、子ども達と向き合う方々の活力となりました。

平成 30 年度事業報告

④ 職員育成タスクチーム（新）

【タスクの目的】

職員の育成に関する全般的なことについて状況を確認し、月一学習会や園内外の研修で実践する。職員のメンタルヘルスも担う。

【主な活動内容】

月一学習会の企画実施（主に 1～2 年目の職員が対象）

職員の県外他施設視察研修

ファミリーホーム三愛菫の里との交換研修

職員のメンタルヘルス

【成果】

以下の内容で全 7 回実施。1～2 年目職員はさんあい養育での具体的な取り組み、考え方について学ぶ機会となり、講師を務める先輩職員は自身の振り返りと共に、後輩への「伝え方」「教え方」を身に着ける機会になりました。

5/30（水）児童養護施設さんあいの理念、養育目標（1 年目対象） 講師：高瀬施設長

6/20（水）F H 三愛菫の里見学と家庭的養育の必要性（1 年目対象） 講師：野田、野口ホーム長

7/17（水）リスクマネジメント・職務としての安全管理（1～2 年目対象） 講師：高柳、浅野

9/12（水）自分の中の疑問や悩みを整理する（1 年目対象） 助言者：浅野、天田、國分

10/24（水）子どもの権利擁護のためのガイドブック学習（1 年目対象） 講師：青木主任

12/5（水）心理ケアの必要性について（1 年目対象） 講師：天田心理士

2/13（水）ガイドブック事例集を活用したケースカンファレンス（1～2 年目対象） 講師：高柳、浅野

- ① 「ステップアップ研修」と題し、2 班に分かれて以下の県外施設視察研修を実施。事前にどのような内容を学びたいかを検討し、対象となる視察先を決め、勤続年数により 2 箇所に分けた。視察先の資料、情報を事前に提供することで、当日の質問も多く出され、職員自身が知りたいこと、学びたいことを知り得た視察となりました。マニュアルの整備、人材育成等、視察先を参考に取り組み始めたこともあり、さんあいの未来に繋がる視察研修となりました。

◆ 3～4 年目職員 7 名視察先：社会福祉法人 三晃福祉会（群馬県太田市）

東光虹の家（児童養護施設）、東光乳児院、こどもの家童夢（地域小規模）

こども家庭相談室（児童家庭支援センター）、虹ヶ丘園（母子生活支援施設）

◆ 5 年目以上職員 9 名視察先：社会福祉法人 生活クラブ（千葉県君津市）

はぐくみの杜君津（児童養護施設）、人力舎君津（自立援助ホーム）

- ② 生活リズムや環境の違いはあるものの、同じ法人内の施設職員として、理解を深め、お互いの良さを学ぶ場として実施。7/5、6、9 と本園より河村、新井、國分のリーダー 3 名、菫の里より石澤 1 名が交換研修として学びました。子どもとの関わり方、距離、子ども同士の関係性、約束事、職員のチームワークなど、互いの良さを知り、理解する良い機会となりました。
- ③ 職員のメンタルヘルスにおいては、新任振り返り S V、育成面接、業績感謝面談と共に、日頃の職員の状態について気になる情報があればタスクで検討し、必要に応じて心理士との面接や施設長との面談を実施。状況により休職等も考えながら職員と一緒に考えてきました。

喫緊の課題として、若い職員のメンタルヘルスのサポート体制の充実が挙げられます。子どもとの関わりの中からも精神的負担の軽減策、ストレスを抱えた際のサポート体制等の課題を休暇や研修の充実を図りながら克服し離職率の低下つなげられるように努力して行きます。

平成 30 年度事業報告

⑤ チュータータスクチーム

チュータータスクは1年目職員の育成を中心に行っています。育成計画の作成、タスクメンバーと1年目職員との年3回の面談、1年目職員を指導する立場のリーダーの勉強会を実施しました。まだまだ手探りではありますが、1年目職員の考えていることや悩みを通し、何が求められ、出来るのかを考えることができ、お互いの勉強に繋がっているように思います。今後入職した職員が楽しく、目標を持って仕事ができるよう同僚の目線でサポートしてゆきたいと考えています。



⑥ 生教育タスクチーム

今年一年間は、施設における生教育の在り方を見直し、検討しました。年齢別横割りで行っていたグループワークではなく、ホーム単位での「プライベートゾーン」「境界線」という基本を意識した支援に注目することとしました。また生活支援アンケートを活用し、児童の課題を整理し個別生教育を実施することで、それぞれの児童に合った支援を行うことを意識しました。児童間の関係性という面においては、性被害・加害防止を目指し、関係性チェックを定期的に行いました。その他にも年6回トイレ新聞の発行や児童が見ているアニメやドラマの内容で性描写や暴力的なシーンなど不適切な内容が含まれるものについて情報提供を行いました。10歳の児童には、2分の1成人式を実施し、将来の夢を語ってもらいました。職員向けの研修は園内研修として生教育の内容を取り上げて頂き、職員自身の意識も高まりました。次年度は、より生活に根差したさんあいならではの性教育を施設の文化として根付かせていくことが出来るように一つひとつの取り組みを大切に行っていきたいと思っています。

⑦ 子どもの権利擁護タスクチーム

今まで1度だった第三者委員による子どもの権利ノートについての学びの時を、平成30年度は7月と12月の2回行い、学びと理解の充実を図りました。また、ロバの耳ボックスに関しては今までは事務所に設置されていたものを各部屋のリビングに設置し、より子ども達の意見表明をしやすい環境を整備しました。子ども達の意見表明がしやすくなった反面、適切な意見表明という点は課題となります。子どもも職員も適切な権利の理解が出来るよう取り組んでいきたいと思っています。



平成 30 年度事業報告

⑧ 療育タスクチーム（新）



平成 30 年度より新たに療育タスクチームができました。子どもたちの発達を促しより良い生活を送れるように支援していくチームです。初めての取り組みだったので、療育園のプログラムを見学したり、施設で取り組めるプログラムを考えたりと試行錯誤でした。「ことばのトレーニング」や「からだのトレーニング」で粗大運動・微細運動・口の筋力トレーニングが出来る遊びを考え実施し、子どもたちも楽しそうに取り組んでくれました。今後は、子どもたちのニーズにより合わせたプログラムを考え実施していきたいと思っています。

⑨ 学習支援タスクチーム（新）

平成 30 年度からスタートして学習支援タスクチームは、オリーブで生活する緊急一時保護の子どもたちへの学習支援、入所児童への学習支援、さらにはアニマルセラピーまで広範な課題に取り組みました。オリーブの子どもたちへの支援は、毎週定期的に来て下さるボランティアの方々に年間を通して支えられました。入所児童への支援は、夏休み時期に宿題に取り組む日を交流ホールで持った他に、不定期ですが学習に課題のある子どもたちを集めて学習会を実施しました。アニマルセラピーの推進では、獣医学部出身のボランティアさんの支援により、子どもたちと職員に犬やウサギの飼育方法、シャンプーの仕方、トリミングの仕方等の学習の時を持っていただきました。さらに現在飼育している犬とウサギのお世話当番表や日誌の作成、そして餌やシャンプー等、飼育に必要な用品の調達リクエストも担いました。今後の課題としては、学習支援タスクとしての役割の軽減と増築により新しくできた学習室の活用、オリーブの学習支援の充実が挙げられます。



⑩ アフターケアタスクチーム

例年通り「同窓会」と「もちつき」を企画、「同窓会」には 20 名以上の卒園生・元職員の方々が参加、楽しい時間を過ごしました。新しい企画としてコンパスナビ様の協力をいただき「お金のスタートレーニング」を実施、お金のトラブルや上手な使い方などを中高生と一緒に学びました。もう一つは A C H A プロジェクト様の協力で成人式を迎えた卒園生 2 名の晴れ着撮影会をさんあいを会場として実施、職員や子ども達も参加して素敵な時間を持つ事が出来ました。宿泊場所の提供が出来ず、遠方から来園する卒園生への対応が課題となっていました。F R の使用が可能となり今後は高校生の退所前の自活訓練にも活用したいと考えています。



平成 30 年度事業報告

⑪ 危機管理タスクチーム

【子ども 110 番の家の確認】

登校班の子どもたちと一緒に通学路を歩き、子ども 110 番の家の場所を確認し、不審者に遭遇した場合の有効な避難方向について子ども達と確認しました。

【応急救置についての学習（協力：埼玉よりい病院）】

日常医療で困ったことや疑問に思っていることを中心に詳しく教えていただきました。また、わかりやすい対応マニュアルを作成していただきました。

【子どもたちの危険な行動とその場所についての把握と対応策の具体化】

日ごろから「ヒヤリハット」の視点で子どもたちとの関りで危険だったことを記録として残しています。

【防犯ブザーの定期点検】

子どもが日常使うため故障が多く、また電池切れもあるため毎月 1 回の点検を行っています。

【交通安全指導と自転車の整備調整】

子どもの体に合った自転車の調整を行い、園の敷地から道路に出るときの一時停止の必要性を伝えています。

・救急救命研修（AED、心肺蘇生）



【平成 30 年度避難訓練活動報告】

月	日	内 容
4	22	日中避難訓練・消火訓練（消火器の扱い方）
5	20	夜間避難訓練（夜間想定）・消火訓練（消火器の扱い方）・通報訓練
6	17	夜間避難訓練（夜間想定）・消火訓練（消火器の扱い方）・通報訓練
7	27	夜間避難訓練（夜間想定）・消火訓練（消火器の扱い方）・通報訓練
8	22	総合避難訓練（放水訓練・通報訓練） * 消防署立ち合い
9	17	夜間避難訓練（夜間想定）・消火訓練（消火器の扱い方）・通報訓練
10	21	地震避難訓練・消火訓練（消火器の扱い方） * 非常食の昼食
11	24	日中避難訓練・消火訓練（消火器の扱い方）
12	28	夜間避難訓練（夜間想定）・消火訓練（消火器の扱い方）・通報訓練
1	20	日中避難訓練・消火訓練（消火器の扱い方）
2	24	日中避難訓練・消火訓練（消火器の扱い方） * 消防署届け出
3	10	地震避難訓練・消火訓練（消火器の扱い方）

6. 事務所棟増築工事報告

H30. 10. 15 理事会

- ・ 事務所棟増築工事設計監督委託契約をモリモトアトリエと取り交す事の承認
- ・ 事務所棟増築工事予定価格を 31, 493, 880 円とする事の承認
- ・ 事務所棟増築工事の入札方法を一般競争入札とする事の承認
- ・ 事務所棟増築工事の公告についての承認

H30. 11. 29 交流ホールにて、役員立ち合いの元

竹並建設、横尾建設、古郡ホームの
3 社での一般競争入札。



同日 理事会

- ・ 入札の結果、古郡ホームが落札し、契約業者を古郡ホームとする事の承認
- ・ 施設・設備整備積立金取り崩しの承認

H30. 11. 29 古郡ホームとの工事契約を結ぶ。

H30. 12. 4 工事着工



平成 30 年度事業報告

H31. 1. 31



H31. 2. 15



H31. 3. 6



H31. 3. 19



H31. 3. 29

引き渡し

建物外観・内観



平成 30 年度事業報告

7. 第二回タイの子どもたちとの交流ツアー報告

① スケジュール

8/14	前日 成田泊	
8/15	10 時 20 分 マレーシア航空でクアラルンプール経由バンコク行き 18 時 55 分 バンコク着	
8/16	08 時 00 分 チェックアウト チャンタブリへ出発 (途中昼食) 11 時 00 分 パタヤ孤児院訪問 寄付金贈呈 14 時 30 分 バンドンプレ小学校着 支援事業視察	 
8/17	09 時 30 分 バンドンプレ小学校着 給食準備あいさつ後に昼食づくり開始 (カレーライス 160 人分) 12 時 00 分 保育園児 小学生と昼食会 13 時 30 分 交流会、ビンゴゲーム、寄贈式と記念撮影 (サッカーボール、バレーボール、書籍) 17 時 00 分 ホテルへ戻り夕食	 
8/18	07 時 00 分 チョンブリ県 児童養護施設「豊かな人生の家」へ出発 09 時 30 分～10 時 00 「豊かな人生の家」着 あいさつ・昼食作り開始 (巻き寿司 50 人分) 12 時 00 分 昼食 13 時 30 分 交流会・施設見学・意見交換、寄付の贈呈式、記念撮影 15 時 30 分 バンコクへ出発	  
8/19 日	10 時 00 分 観光 買い物 昼食 18 時 40 分 マレーシア航空でクアラルンプール経由成田行き	
8/20 月	07 時 20 分 羽田着 電車で岡部へ 10 時 30 分 岡部着 さんあい帰園、解散	

平成 30 年度事業報告

② 実施に至る経緯

2016 年 6 月にさんあいは創立 40 周年を迎えることができました。その節目を記念して、「40 周年記念事業」を 2015 年度と 2016 年度の 2 年間に渡り実施いたしました。その中の 1 つがタイのチョンブリ県にある児童養護施設「豊かな人生の家」及びチャンタブリ県マカハム郡バンドンブレ小学校に通う貧困家庭の児童への支援です。このことは、さんあいの理念である聖書の教え、「受けるより与える方が幸いである。」ということさんをさんあいの子どもたちにも体験してほしいという願いも込められています。さんあいは多くの方々から支えられて 40 年を迎えました。皆様からのご支援は必要なくなったという状況ではありませんが、組織として社会に対しお返しする年齢に達したと考えています。そして子どもたちや職員に対し「与えること」の実践として、国内外の貧困に苦しむ子どもたち、特にタイの子どもたちの支援は継続してゆこうと願っています。この支援を通して、神様がさんあいと子どもたちを更に成長させてくれると信じています。

③ タイ交流ツアーの意義

海外へ行くのですからお金は掛かります。しかしさんあいの考えは明確です。その 1 つは、海外での貴重な経験を通して、参加した児童が将来日本や世界の人のために働く夢を持ったり、職員のモチベーションが上がり、さらに質のよい仕事ができることを期待しているからです。2 つ目は、さんあいは地域に根差した児童養護施設ですが、同時に国内や海外の社会的養護に必要な児童のためにできることをして行く施設であり続けるということです。それは終戦後の混乱の中で約 12 万人の孤児たちが生死をさまよっていた時に、海外（特に北米）からの支援によって支えられ、日本の児童養護の礎となった歴史的事実を受け止め、少しでも恩返しをしたいと考えるからです。

④ 報告会の開催

参加者は、帰国早々施設親善ソフトボール大会への参加、2 学期の準備等で旅の余韻に浸る暇もない状況でした。そこで 2 学期が始まり少し落ち着いた 9 月 30 日に「タイ交流ツアー報告会」を開きました。参加した児童たちは真剣にタイの子どもたちの様子や食べ物、学校の様子、タイ児童養護施設の報告を聞いていました。



平成 30 年度事業報告

写真でみる平成 30 年度



入園・入学を祝う会（4月）



ポニーちゃんとウサギさんが来ました（4月）



ジャガイモの植え付け（5月）



さんあい祭り（5月）



小学校運動会（6月）



ジャガイモの収穫（6月）



ガーデンパーティー（7月）



カブトムシ採り（7月）



特別外出（8月）



くしびき祭り（8月）



県内施設親善球技大会（8月）



タイの児童養護施設との交流ツアー（8月）



中学校運動会（9 月）



さつまいも収穫（10 月）



さんあいセミナー（11 月）



軽井沢おもちゃ王国招待（11 月）



子ども祝福式（11 月）



英語で遊ぼう（11 月）



クリスマスツリー点火式（11 月）



クリスマス会（12 月）



元旦の挨拶とお年玉（1 月）



お餅つきと同窓会（1 月）



ボランティアによるピアノレッスン（3 月）



避難訓練（3 月）



卒園生の成人記念撮影会（3 月）



卒園・卒業を祝う会（3 月）

平成 30 年度事業報告

「思いやり」の報告

さんあいの養育目標は「思いやりのある子」です。そしてその実践として、地域から国、そして世界の人々に対して私たちの支援の輪を広げることを標榜しています。平成 30 年度は、子どもたちと職員からの募金とバザー等の売り上げ金の一部、計 381,895 円を用いて以下のような支援をすることができました。感謝を持ってご報告いたします。

- タイの子どもたちと児童養護施設への支援金

さんあい祭りより

- ・ 売り上げからの寄付 187,020 円
- ・ 募金等寄付金 123,508 円

- 平成 30 年 8 月 9 日 豪雨災害義援金

- ・ 子どもたちと職員の募金 28,367 円

- 平成 30 年 10 月 18 日 北海道胆振東部地震災害義援金

- ・ 子どもたちと職員の募金 8,000 円

- シリア難民への支援金

- ・ 子どもたち、職員、クリスマス会ゲストからのクリスマス献金 35,000 円

平成 30 年度中の関係者のご支援と神様の恵みに感謝いたします！

“あなたのして欲しいことを、あなたの隣人にもしてあげなさい。”

(聖書)

児童養護施設は、保護者のいない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする。（児童福祉法 第 41 条）

児童養護施設 さんあい

369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

電話 048-585-0605

Fax 048-585-0562

[Web サイト]<http://www.san-ai-jidouyougo.net/index.html>